



東京都立大学大学院
人間健康科学研究科
人間健康科学専攻
作業療法科学域

Tokyo Metropolitan University
Department of
Occupational Therapy
Graduate School of Human
Health Sciences

2025



TOKYO
METROPOLITAN
UNIVERSITY

作業療法科学域

ディプロマ・ポリシー

人間健康科学研究科では、大都市で生活する人々の「健康」に関連する研究を重点的に行っている。特に、東京都立大学の使命である「活力ある長寿社会の実現」に貢献する研究は、本専攻の重要課題のひとつである。幅広い分野の理論や実践的知見を礎に確立された学問体系を基盤とし、それを深化させるとともに、学際的・融合的な研究体制のもと、大学院教育が行われている。健康に関わる様々な分野における「高度実践的専門家」ならびに「先端的研究者」の育成を目指している。

アドミッション・ポリシー

【博士前期課程・全分野共通】

作業療法科学域では、人間を作業的存在と捉えることによって、科学的、社会的、国際的、文化・創造的視点から幅広く作業療法に関する知識の構築を図り、作業療法教育、一般臨床から地域・生活におけるヘルスプロモーションに貢献する実践家、教育・研究者を育成することを目指しています。そのため、作業療法に関連する幅広い教育力、マネジメント力、そして研究力を身につけることができる人、作業療法の創造的発展に貢献しながら、国際的にも活躍できる可能性を持ち、こうした努力を惜しみなく実行できる人を求めます。

【博士後期課程・全分野共通】

博士後期課程では、博士前期課程における作業療法に関する知識の構築に加え、さらなるその深化を図り、より自立した指導的な実践家、教育・研究者を育成することを目指しています。そのため、自らの専門分野で卓越した知を創出することにより、作業療法の創造的発展に貢献するとともに国際的にも活躍が期待できる人を求めます。

カリキュラム・ポリシー

作業療法科学分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、関連する分野の基礎的素養を涵（かん）養するよう編成されている。

博士前期課程では作業療法科学域の共通科目として「分野共通必修科目」が設置されているほか、各分野の専門科目である「分野必修科目」、更に専攻共通科目が設定されている。研究においては、指導教員および副指導教員による個別指導や分野（研究室）における議論などによって、自分の研究テーマの正しい科学的解明を目指すとともに、論文の書き方・発表・議論の仕方なども学ぶ。

博士後期課程では、各自の研究目的に合致した科目を選択し、博士前期課程における研究を継続し、研究論文としてまとめる。学術雑誌への掲載や、学会での報告などによって研究を深め、3年次1月に最終発表会を行う。博士論文は、外部の審査付き学術雑誌に投稿、掲載されることが条件となる。

（別表）人間健康科学研究科 作業療法科学域 博士前期課程
専門教育における学習成果と授業科目の対応表（カリキュラムツリー）



（別表）人間健康科学研究科 作業療法科学域 博士後期課程
専門教育における学習成果と授業科目の対応表（カリキュラムツリー）



分野紹介

心身機能作業療法科学

本分野は、人間を構成する身体、精神・心理、発達の領域研究とそれぞれの学際性ならびに統合研究を行うことを目的とします。とくに人間心理と活動、生活、環境、文化の視点から新しい作業療法研究、教育、臨床を創造していく意欲と想像力に溢れた陣容で構成されています。質的研究、量的研究はもちろん、混合研究法の発展を踏まえながら根拠に基づく作業療法を確立し、より豊かで開かれた社会と人間真理の追求に貢献できる意欲をもつ「研究者の卵」を広く募集いたします。私たちと一緒に core of human being を探求しませんか。

作業行動科学

作業行動（Occupational Behavior）や作業科学（Occupational Science）は作業療法創始者たちの理念を現代化するために提唱されたものです。本分野ではこれらの理論の更なる展開のために、関連する哲学やシステムの発想、行動科学といった諸概念の応用を図ります。そして、作業が人々の健康と幸福にどのように影響するのか探っていきます。本分野では理論の様々な作業療法領域への応用やエビデンスの産出のみならず、作業を通して住民が健康になれるような地域づくりにも積極的に参画して、作業療法の可能性を広げていきたいと考えています。

作業生活環境科学

対象者が心から望む作業occupationを可能とするために、環境へのアプローチも欠かせません。本分野で学修していく環境には、福祉機器・用具や住宅改修などの物的環境、介護家族や専門職スタッフなどの人的環境、サービスや制度などの政策的環境、震災や気候変動などの自然環境、スティグマや社会規範などの文化的環境が含まれます。このような環境がいかにして人の作業参加を阻害・促進するのかを明らかにし、人の生活を豊かにする手だてを提案していくのが本分野のミッションです。

教員紹介

教員名	職位	研究領域
伊藤 祐子	教授	発達領域の作業療法に関する研究、感覚統合理論と実践の効果、発達系における支援機器・おもちゃ・遊具、特別支援教育の作業療法に関する研究
小林 法一	教授	高齢者の地域作業療法に関する研究
塩路 理恵子	教授	臨床精神医学、不安障害および慢性抑うつ of 精神病理学・精神療法・森田療法
谷村 厚子	教授	精神科領域の作業療法に関する研究、地域精神保健サービスに関する研究、作業療法教育に関する研究
井上 薫	教授	作業療法教育および福祉用具・評価・トレーニング機器の開発・評価、医療・福祉ロボットの臨床応用
石橋 裕	准教授	健康増進事業におけるプログラム開発、ルックスケア支援、がんサバイバー支援
蘭牟田 洋美	准教授	高齢者心理学・健康科学・介護予防：介護予防の視点からの閉じこもり高齢者への心理的支援法、中高齢期における健康行動と居場所と笑いに関する研究
金野 達也	准教授	作業科学、クライアント中心の作業療法介入の研究、IADLに関する研究
宮寺 亮輔	准教授	身体領域の作業療法に関する研究、ICTを活用した遠隔リハビリテーションに関する研究、成人および子どもの協調運動機能に関する研究、作業療法教育に関する研究
橋本 美芽	准教授	高齢者・障がい者・認知症高齢者の障害特性に 対応する住環境整備と福祉用具の適合に関する研究、福祉のまちづくりに関する研究
宮本 礼子	准教授	functional MRI を用いたヒトの意思決定に関する研究、VRシステムを用いた多職種連携教育、治療と仕事の両立支援に関する研究

学位論文一覧

(最近2-3年分)

修士論文

入院中の精神障害のあるクライアントの要望を実現可能な作業に結び付けるための作業療法士のアプローチ
職場定着支援従事者の精神障害をもつ利用者への支援とその根拠
自閉スペクトラム症のある児童・青年の性行動に対する作業療法士の支援の視点と課題
The efficacy of stability ball sitting during tabletop activities for children with Sensory Processing Disorder (SPD)
下じきの工夫が運筆動作へ及ぼす影響
回復期病棟入院中に日常生活動作能力が改善した脳卒中患者の主観的経験に関する研究
回復期リハビリテーション病棟に入院している脳卒中患者が退院時に予測した作業遂行に対する認識と退院後の作業遂行との関連
作業療法士が認識する興味関心チェックシートで得られる有用な情報
地域在住高齢者を支える家族介護者の生活様式と生活満足度の関係
Experience of Using Assistive Technology in Pursuit of Occupational Justice: A Photo Elicitation Focus Group Study among Community Dwelling Individuals with Spinal Cord Injury and Their Primary Caregivers
Experience of Parents of Children with Disabilities for Disaster Preparedness in Indonesia: A Descriptive Qualitative Study

博士論文

Validity and reliability of the Checklist for Habitual Physical Activity (CHaPA) for 75 years and older in Japan Checklist for Habitual Physical Activity (CHaPA)の開発および妥当性信頼性の検証
Development of the Japanese version of the stroke stigma scale: a validity and reliability assessment (Stroke Stigma Scaleの開発: 信頼性・妥当性の検証)
高齢者における非利き手での短時間箸操作運動学習に関連する脳内ネットワークの検討
Verification and Comparison of the Occupational Balance Model and Work-Life Balance Model in the Mental Health of General Workers (勤労者の精神的健康における作業バランスモデルとワーク・ライフ・バランスモデルの検証と比較)

作業療法科学域の国際交流

海外への留学・研修

- タイのチェンマイ大学 Chiang Mai Universityへの短期研修

2012年から大学院生はイギリスのオックスフォード・ブルックス大学（OBU）で毎年夏季のグローバル中核人材向け短期研修に参加していましたが、2024年よりチェンマイ大学（CMU）に変更されます。これには、CMUの教員や大学院生によるセミナーや、作業療法士の現場訪問などが含まれます。学生は自分の研究を振り返り、国際的および異文化の観点から研究を実行するスキルを開発します。

- 海外留学

本学大学院（修士課程・博士課程）では東京都立大学の派遣留学生経済支援制度を利用し、2週間から6ヶ月以上の短・中・長期留学が可能です。なかでも、スウェーデンのカロリンスカ研究所とは国際交流、学生・教員交流を継続して行っており、院生がカロリンスカ研究所とかアムステルダム応用科学大学に留学し、教授陣のもとで研究活動を実施し、院生同士の議論、国際学会への発表などを通して、自身の研究テーマをより幅広い視点で探求し、グローバルな研究者としての歩みを進めました。上記の大学以外にも、指導教員のアレンジにより欧米やアジアなど海外の大学への派遣も可能です。

また、本学ではユーロマスター(European Master of Science in Occupational Therapy)の履修に挑戦することができます。ユーロマスターとは、アムステルダム応用科学大学に本部を置き、ヨーロッパの5つの大学により提供される作業療法の修士課程です。ユーロマスターでの科目履修は、博士前期課程の単位として読み替えを検討することができます。

留学生の受け入れ

- 東京グローバル・パートナー奨学金を活用した外国人留学生の受け入れ

2012年より博士後期・博士前期課程に、アジアからの留学生を受け入れています。(2018年度から、毎年約2--3名が入学) <https://www.thrf.ic.tmu.ac.jp/tokyogp/>

国際色豊かな授業

- 大学院科目「Advanced Occupational Therapy」

毎年、海外のさまざまな大学から講師を招聘し、インターナショナルな視点で作業療法を学ぶとても魅力的な機会を提供しています。

- TMU-OT Graduate School International (inter-laboratory) Seminar

留学生と後期課程院生のためのセミナーとして開催しています。英語でのプレゼンテーションやディスカッションを磨きたい前期課程の院生や教員も参加しています。

東京都立大学アクセスマップ

各キャンパスの位置と交通アクセス

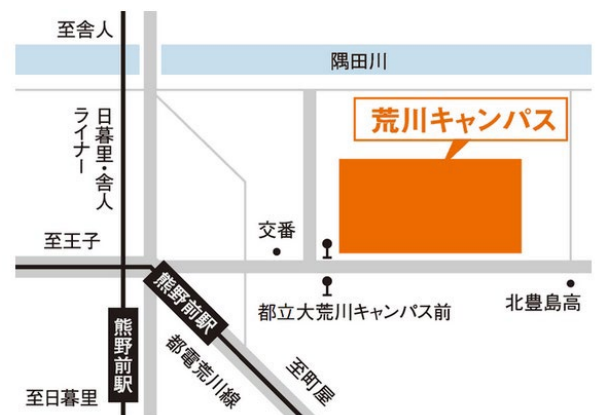


荒川キャンパス

所在地
〒116-8551 東京都荒川区東尾久7-2-10
Tel 03-3819-1211 (代表)
所属組織
健康福祉学部、人間健康科学研究科

アクセス

日暮里・舎人ライナー「熊野前」駅下車徒歩3分
都電荒川線「熊野前」駅下車徒歩3分
田端駅から都営バス端44系統「北千住駅行」に乗車
「都立大荒川キャンパス前」下車徒歩0分



南大沢キャンパス

所在地
〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1
Tel 042-677-1111 (代表)
所属組織
都市教養学部、都市環境学部、人文科学研究科、社会科学部、理工学研究科、都市環境科学研究科、人間健康科学研究科ヘルスプロモーションサイエンス学域

アクセス

京王線相模原線「南大沢」駅改札口から徒歩約5分
※改札口を出て右手に緑に囲まれたキャンパスが見えます。

